※　緑文字は職員へのアンケートを実施して成果を検証するものです。同様に、青文字は児童生徒へのアンケートで、赤文字は保護者へのアンケートで成果を検証します。

平成２８年度　西都市立三納小中学校自己評価書　　【評価基準】４～期待以上　３～ほぼ期待どおり　２～やや期待を下回る　１～不十分

領域	評価項目	区分	評価指標または数値目標	結　　果	学校の自己評価と改善策	自己評価 指標別	自己評価 総合	学校関係者評価委員のコメント	評価
Ⅲ　体力の向上と健康な体づくり	①体力向上の推進	共	a　体力テストを分析し、どの学年でも前年度のテスト結果を上回るようにする。 b　体育の授業において、どの学年でも三納っ子ウォーミングアップ運動を実施する。 c　小中学校運動会を充実させる。	a　前学年より上回っている学年と下回っている学年があった。 b　小中学校とも実施している。 c　細かな反省点はあるが、全体的に充実していた。	a　前年度落ち込んでいる種目を改善するために三納っ子ウォーミングアップ運動を授業に取り入れる。 b 今後とも継続していく。 c　細かな反省点を修正して来年度に生かしていく。	3.11	3.26	○　運動会、持久走大会、部活動、駅伝大会等、児童生徒が期待以上にがんばる姿が見られる。今後も体力向上プランをもとに、全校で体力の向上を目指してほしい。	4
		小	d　体育的行事を定期的に実施する。（持久走大会、なわとび大会など） e　晴れの日は外で遊ぶ児童を９０％以上にする。	d　体育的行事は予定通り実施できた。 e　天気のよい日には、ほとんどの児童が外で遊んでいる。	d　今後体育的行事があるので、児童に目標をもたせながら、計画的に実施していく。 e　体育委員会、学級担任から呼びかけていく。	3.43			
		中	f　体育的行事を定期的に実施する。（部活動、三校対抗駅伝持久走大会など）	f　各部とも一生懸命練習している。各部指導者の方々も熱心に指導してくださっている。三校合同駅伝大会も、すばらしい走りがみられた。	f　来年度も計画的に取り組ませたい。	3.56			
	②健康安全指導の充実	共	a　健康診断後の指導を充実させ、家庭への啓発を図る。 b　毎月「すこやかウィーク点検週間」を実施し、保護者の協力を得ながら、基本的な生活習慣の定着を図る。 c　性教育の授業を実施し、性教育の充実を図る。 d　学校保健委員会を開催し、家庭と協力して、各学年で設定した目標達成を目指して実践させ、健康的な生活習慣の確立を図る。 e　安全点検を実施し、危険箇所の改善を図る。	a　健康診断の結果を、各種カードや検診結果のお知らせ等により、家庭へ通知した。 b　毎月のテーマを設定し計画的に実施している。 c　学級担任と連携して性に関する指導を行った。 d　第２回学校学校保健委員会を開催し、「メディアとの上手な付き合い方」という演題で講演会を実施した。アンケート結果によると、ノーメディアデーを決めている家庭は約２割であった。 e　危険箇所の修繕等については、予算を伴うものが多く、すぐには改善できないところもあるが、少しずつ改善が図られている。	a b　今後も継続して指導していく。 c　か母ちゃっ子くらぶや担任による指導を引き続き行う。中学生は、か母ちゃっ子くらぶによる授業を２月に実施予定。 d　「すこやか点検表」にメディアに関する項目と各学年の目標達成のために家庭で取り組むことの項目を毎月入れて振り返りを行っているが、今後も啓発に努めながら継続して取り組んでいく。 e　原則として、毎月第２週に安全点検を実施している。学期の初めと終わりには、各部で担当箇所を点検するなど、実施方法を工夫し、危険箇所の早期発見と安全管理を徹底する。３学期初め、屋外で大きな怪我が発生したため、１月～３月に運動場の遊具や校舎周辺の安全点検を校務部ごとに行い、危険箇所を図に表して指導に役立てるようにする。	3	3	○　安全点検は定期的に行っているのか。また、危険箇所は市に連絡しているのか。 ○　児童生徒がメディアコントロールできるようにするには、学校だけでは無理である。もっと保護者に対する啓発を行い、ノーメディアではなく、メディアとどうつきあっていくのかという指導に力を入れてほしい。 【学校からの回答】 ○　学校保健委員会において、メディアコントロールについての講演会を実施したが、参加者が少なかった。今後は親に対してメディアの危険性を伝え、親子で学習できる機会をつくっていく。また、ノーメディアデーからノーメディアタイムに目標を変え確実な実行を目指す。	3
	③食に関する指導の充実	共	a　給食の残食ゼロを目指す。 b　給食時の日常指導や「給食指導の日」の指導を徹底する。 c　栄養教諭、養護教諭、外部講師を活用して、食育の指導を充実させる。 d　「お弁当の日」を実施する。 （小学校は年２回、中学校は年２回） e　朝食を食べて登校する児童生徒を１００％にする。	a　残食については、学年によって差がある。 b　給食指導を実践しているが、当番で爪が伸びている者がいるときがある。 c　栄養教諭の協力を得て、年間計画に沿って食育の授業を実施している。また、給食感謝週間を設定したり、給食感謝集会を開いたりすることで食に対する感謝の気持ちを育てている。 d　秋の遠足（小）、文化祭（中）で実施し、感想や写真を校内に掲示した。 e　アンケート結果によると、９５％以上の児童生徒が朝食を食べて登校している。	a　日常の個別指導や食育授業で指導していく。 b　月曜日の朝の会で爪チェックを行い、給食時間までには切っておくように指導する。 c　今後も継続していく。 d　３学期は、送別遠足（小中）で実施予定。 e　保健指導や食育授業で朝食の大切さについて指導を行うとともに、保健だよりや掲示物により啓発をする。	3.05	3.05	○　生活習慣病をどう防いでいくのかが我が国の課題である。子どものころから「食に関する指導」を計画的に確実に行っていくことが大切である。 ○　アンケートによると、５％の子どもが毎日朝食を食べてきていない現状が見られるが、その子どもたちは大丈夫か。 ○　朝食はただ食べてくればいいというものではない。「朝食の質（バランスのとれた食事）」が大切であることを保護者に伝えるために、どのような朝食をとっているのか、保健室で数値的なデータをとっていくことが大切である。 【学校側の回答】 ○　朝食を食べてきていない子どもの親は、朝食を用意していないわけではなく、用意しても食べてこない児童生徒がいるのが現状である。なぜ、朝、食欲がないのかその理由を調査し、改善を図っていく。また、朝食の質については、学校保健委員会と連携を図りながら朝食の内容についても調査集計し、朝食の大切さについて保護者に伝えていく。	3